

# グローバル災害安全マップ ( GDSM ) プログラム

## ＜防災学習・災害安全マップの作成＞

### 18 時間授業プログラム例

世界各地の学校が、「災害安全マップ」をつくります。これは、地域の守りたいものや危険な箇所を見つけ、どのようにして被害を減らすのかを考え、インターネットテレビ会議やフォーラムで議論しながら共同で作る、これまでにない新しい防災マップです。世界のすべての学校が災害安全マップを作ることにより、「グローバル災害安全マップ (Global Disaster Safety Map)」ができあがるのです。

**防災教育： 被害抑止・被害軽減**

Disaster Education

**対象：** 小学校から高校まで、全ての学年

## インターネットで世界に広がる！ 災害安全マップ



上のマップは 2006 年 1 月開催の台湾会議で発表された「災害安全マップ」です。  
2006 年度の「災害安全マップ」の発表会は、2007 年 5 月開催の「防災世界子ども会議 2007in あいち」です

\* NDYS は情報通信技術 Information Communications Technology (ICT) を活用して、  
国際的な防災教育ネットワークを拡張・拡充しています。

## <はじめに>

自然災害に国境はないと言われるとおり、地震、津波、火山、ハリケーン、台風、洪水、地滑り、旱魃などの災害がすべての国々で繰り返し発生し、多くの尊い命や財産が失われてきました。NDYS は、同じ被害を繰り返さないように、世界の学校が力を合わせ、災害による被害の軽減をめざして、「グローバル災害安全マップ」づくりに取り組みます。

防災には、被害抑止、被害軽減、応急対応、復旧・復興という4つの段階があります。被害抑止と被害軽減は、災害前の段階で、応急対応と復旧・復興は、災害後の段階です。被害抑止は被害を出ないようにすること、被害軽減は被害が出たときのために災害前に準備しておくこと、応急対応とは、災害直後の避難、救助等の活動であり、復旧・復興とは、災害前以上の状態に戻すことです。

### ◆阪神・淡路大震災の教訓より◆

1995年の阪神・淡路大震災では、多くの人命が犠牲になりました。犠牲者の8割以上が、倒壊した建物や倒れた家具の下敷きになっての圧死が原因でした。地震の被害を軽減するためには、住宅の耐震化が最も重要であることがわかります。この耐震化は被害抑止にあたります。建物に被害はなくても、家具が転倒・移動して道を妨ぎ、避難できなかった人が多数いました。

また近所の方々に助けられた人々も多数いました。犠牲者の6割近くが発生後15分以内に亡くなっています。政府や自治体の取り組む問題にとどまらず、私たち一人ひとりの地域コミュニティによる救助体制を整備しておくことも災害対策であり、これは被害軽減にあたります。

阪神・淡路大震災の経験から、事前対策(被害抑止、被害軽減)を重視、その中でも被害抑止を重視しなければならないことがわかります。

現在の日本での防災教育と言えば、避難訓練や防災訓練などが主な内容ですが、これは応急対応にあたります。マスコミからの災害情報にしても、非常用バッグのことや訓練の様子などの情報が多く、被害抑止の意識が社会全体で欠如しているように思われます。

## < 災害安全マップについて >

自分たちの地域のいいところはどこなのか？

どこが悪いのか？

どうすれば災害の被害を少なくできるのか？

インターネットなどのICT(情報通信技術)を使い、国際的な協働学習を通して、新しい情報を得るだけでな

NDYS: Let's create 'Global Disaster Safety Map'

く、改めて自分の地域を知ることができます。災害が発生する前に、準備、対策をしておくことで、被害を軽減することができます。



学校の近くを歩いて調査  
兵庫県神戸市立葺合高等学校(NDYS2006)

**目的:** 身につけさせたい「防災力」とは

子どもが被害抑止の重要性を認識する

災害の怖さを知り、自らの力で被害抑止、被害軽減の方法を考える

地域に関心を持つ

防災の知識

**活動:** 防災学習

### ■ Step 1 災害の設定

➡ 災害の種類を知る。

地震、津波、火山、ハリケーン、台風、洪水、地滑り、旱魃他

災害の怖さを知る。

自然災害の中から、地域で起こりうる災害の中から選択して取り上げる。複数の自然災害を設定することも可能。

## ■ Step 2 過去の災害

 自分の国や地域で起こった過去の災害について情報を収集する。

災害の専門家から情報収集

インターネットや本で情報収集

地域で災害に関わっている方々から情報収集

 学習する内容は以下のものが考えらる。  
適宜、教師の判断の下に項目は増やすことができる。

いつ発生したのか

被害地域

死者数

死因及びけがの要因

家屋の被害

ライフラインの被害(水道、ガス、電気)

交通機関の被害

災害中の人間の行動

災害後の生活

復旧・復興

災害の特徴(自然環境から考える)

## ■ Step 3 防災活動・対策(個人、家庭、地域レベルで実施されているもの)

設定した災害の被害を軽減するための活動や対策を個人、家庭、地域の人にヒアリングを行う。

## < 災害安全マップの作りかた >



兵庫県神戸市立葺合高等学校 (NDYS2006)

### 準備物

対象とする地域の地図(生徒が各建物を把握できる範囲が望ましい。小中学校の校区程度)

地図の大きさは、2m x 2m 程度。

地図を拡大コピーし、つなぎ合わせて使用することも可能。

### ■ Step 1 自然条件の確認

➡ 以下のものを確認する。地図に色をつけて分かりやすくする。

- ・ 現在の市街地の位置(赤)
- ・ 山と平地の境界線(緑)
- ・ 河川、池沼、水路の位置(青)

### ■ Step 2 まちの構造の確認

➡ 以下のものを確認する。地図に色をつけて分かりやすくする。

- ・ 鉄道(黒)
- ・ 主要道路(茶)
- ・ 路地、狭隘道路(ピンク)
- ・ 広場、公園、オープンスペース(黄緑)
- ・ 水路、用水、小河川(青)

### ■ Step 3 人的・物的資源の確認

➡ 以下のものを確認する。地図に印をつける、オブジェクトを置くなどして、分かりやすくする。必要であれば、地域でのフィールドワークを実施する。

## NDYS: Let's create 'Global Disaster Safety Map'

### 1. 官公署・医療機関等、災害救援にかかわる機関・施設を表示する

市町村役場、消防署、警察署

学校、幼稚園

医療機関

公民館、自治会館、社会福祉施設

その他公共施設

### 2. 地域防災において役に立つ施設などを表示する

避難地、避難所

救護所

食料、日用品、薬品、燃料等の販売店

防災倉庫

重機等を持っている企業

可搬ポンプ、消防水利

### 3. 転倒・落下・倒壊した時に危険となる施設等を表示する

危険物の貯蔵施設

ブロック塀、石垣

屋外広告物

### 4. 地域防災に役立つ人材を表示する

自治会、自主防リーダー、消防署・消防団のOB、医療・看護関係のOB・OG、自治体職員のOB・OG、建設や修理工関係者、民生・児童委員、通訳(外国語・手話)、福祉関係者

### 5. 災害時要援護者のいる世帯の場所を表示する

高齢者

NDYS: Let's create 'Global Disaster Safety Map'

寝たきりの人

知的障害者、精神障害者

小学生以下の子ども

外国人

#### ■ Step 4 建物及びライフラインの被害の把握



防災学習、作成した地図を参考にどのような被害がでるのかを話し合う。

地域の被害想定等の情報を入手できるときはそれも参考にする。被害は色をつけるなどして分かりやすくする。災害発生の時期、時間などは適宜設定する。より大きな被害が出る時期、時間の方が被害の大きさを理解できる。

#### ■ Step 5 災害時及び災害直後の行動



以下の項目について、話し合う。自分だけではなく、家族や地域の人が安全に避難できるのか、災害関連機関は救助に来ることができるのかなど、地図の情報を活かし、災害時及び直後をイメージする。

災害発生時の行動と避難経路

家族やコミュニティの行動と避難経路

要援護者の行動と救助

#### ■ Step 6 災害時及び災害直後の問題点



Step 5 を基に、どのような問題点があるか話し合う。教師の誘導の下、災害前に対策をすることの重要性を知る。

#### ■ Step 7 災害後の生活(復旧、復興過程)とその問題点



災害後の避難生活、復興時にどのようなものかをイメージし、その問題点を話し合う。問題点は地図に書き込む。

#### ■ Step 8 事前対策を考える



災害発生前にできる対策を話し合う。そして、その対策を地図に書き込む。ここでの対策は、被害抑止(被害が出ないようにする)、被害軽減(被害が出たときのための事前の準備)であるが、前者を重視するようにする。

対策は個人レベル、家庭レベル、地域レベルでできるものを考える。

## <スケジュール>

以下は、GDSMP のスケジュールです。カッコ内は、防災学習及び災害安全マップ作成の各段階に要するおよその時間であり、50 分を 1 単位としています。この時間は最低限必要な時間であり、適宜学校で時間数を増加することは可能。放課後、土曜日などを活用して、より多くの時間を確保して実施することが望ましい。

### 防災学習

- Step 1 災害の設定(2)
- Step 2 過去の災害(5)
- Step 3 防災活動・対策(個人、家庭、地域レベルで実施されているもの)(2)

この時間数は、子どもと教師で調べたこと、インタビューしたことをまとめる時間であり、家族や地域の人にインタビューする時間は入れていない。

### 災害安全マップの作成

- Step 1 自然条件の確認(0.5)

Step 1 と Step 2 は同時に行う

- Step 2 まちの構造の確認(0.5)

Step 1 と Step 2 は同時に行う

- Step 3 人的・物的資源の確認(1)
- Step 4 建物及びライフラインの被害の把握(2)
- Step 5 災害時及び災害直後の行動(1)
- Step 6 災害時及び災害直後の問題点(1)
- Step 7 災害後の生活(復旧、復興過程)とその問題点(1)
- Step 8 事前対策を考える(2)

---

お問い合わせ: 〒651-0085 神戸市中央区浜辺通 4-1-23 三宮ベンチャービル 503

JEARN 神戸事務所 NDYS 事務局 ndys@jean.jp

---